令和５年度　第１回高知市広聴広報推進委員会　議事概要

〇開催日時：令和５年８月２日（水）18：00～20：00
〇場　　所：本庁舎６階 618 会議室
〇出 席 者：玉里委員長，徳弘委員、松本委員、尾崎委員、池田委員，前田委員
　　事務局(森田課長，川添補佐，福冨係長，松原，津野，川久保，岩原)
〇会次第
１　開会
２　委員長代理挨拶
３　議事
（１）令和５年度広聴広報戦略プランの取組報告
　事務局より第２期広聴広報戦略プランに基づく令和５年度の事業の取組状況について，広聴事業，広報事業，組織・体制に関するスキルアップ事業に分けて説明。

（２）第３期広聴広報戦略プランの骨子（案）について

〇項目ごとの意見等概要
（１）令和５年度広聴広報戦略プランの事業と取り組みについての報告
■ＳＮＳ
【委員】
　インスタグラム「えいね高知市」の対象は「県外へ転出した 20 代女性」となっていますが，これはどういった意味か。

【事務局】
　本市は，大学進学や就職で、特に若い女性の方が県外に転出してしまっているという状況であり、こういった方がまた高知に帰って来たいと思ってもらえるような取組として，高知市ＰＲ大使に任命している川村文乃さんのご意見もいただきながら、インスタグラムを始めたという経過があり、このような設定としている。

【委員】
　インスタグラムに上げていく内容が若い女性向きの内容という意味か。

【事務局】
　何となく懐かしい部分や若い世代は映える写真，見てぱっと惹かれるような内容で統一感をもって投稿することとしているが，担当者の人事異動もありなかなか更新ができていなのが状況である。現在のターゲットが本当に良いのかとの思いもあり，本市としても悩んでいるが，手がつけられていないのが状況である。

【委員】
川村文乃さんは、どのぐらい関わってくれているのか。

【事務局】
インスタグラム開設当初は、毎月一つテーマを決めて、１件はご本人のインスタグラムの方に投稿していただいていたが，令和３年度にこのやり方を見直し，テーマ設定しなくなったことで，最近の投稿は少なくなっている。

【委員】
分かりました。ありがとうございます。

【委員】
川村文乃さんの高知市ＰＲ大使の任期はいつまでか。

【事務局】
１年更新で，現在も大使である。

【委員】
現在もインスタグラムに投稿してくださっているか。

【事務局】
インスタグラムへの投稿は，本課の働きかけも弱く少ない状況だが、広報「あかるいまち」には年１回程度登場していただいている。また、今年度は他部署の広報への協力をいただくように今準備を進めている。
高知を懐かしんでもらうというコンセプトでやっているが，インスタグラムは本市の他部署でもアカウント作成しており、例えば観光や移住など、県外に向けた情報発信も転出した人に帰ってきてもらいたいというのが目的であり，その辺のターゲティングが被っているような状況もある。第３期のプランではガラッと変えてしまうという手もある。
先日の「市長と語ろう会」では，フェイスブックよりはインスタグラムで情報収集しているという若者が多く、例えば「街路市をＰＲしたらいいのではないか」とかなど，ご意見いただいたが，街路市についても担当部署がインスタグラムを開設しており、持って行き方が難しいなと思っています。

【委員】
インスタグラムのフォロワーは男性 51％ということでターゲットがズレおり，そこをもっと活かすのはどうか。
みんなが「懐かしい高知へ帰って来ようよ」というふうにしていけば、女性に限定せずに男性もちゃんと見てくれるっていう嬉しい結果と捉えたらどうか。

【委員】
今の話と少しずれるが，広報の手段もいろいろあるなと思って聞いていたが，ＳＮＳは双方の手段なので、逆に広聴側にも使えるのかなと。高知市ではモニター制度をＬＩＮＥで実施していませんでしたか。

【事務局】
メールでアンケートフォームを送信し、それに入力していただく形で実施しています。

【事務局】
インスタグラムやフェイスブックのようにフォロワーだけに発信するのではなく，本課では運用していないが，拡散力の高いツイッター（現「Ｘ」）の方が運用しやすいのではないかという話もある。では，それらを全部やるのか、取捨選択するのか悩ましいところである。

【委員】
ツイッター（現「Ｘ」）の方がいろんな世代に広がりやすいかもしれない。

【委員】
写真や画像を探すのは、インスタグラムの方が良いのでは。

【事務局】
市から発信する内容によって，どの媒体が合うか選別が必要。全て同じ情報をＬＩＮＥにも、フェイスブックにもツイッターにも流すのではなく、それぞれの長所・短所というのもあるので，闇雲に発信するとやはり限界もあり，少し研究しながら考えていきたい。

【委員】
ＳＮＳ登録者のうち、高齢者の割合はどれくらいか。

【事務局】
広聴広報課がアカウント管理するものでは，ＬＩＮＥは 50 歳以上 47.6%、インスタグラムは 55 歳以上 12%、フェイスブックは 55 歳以上 28.4%、ユーチューブは 55 歳以上 27%となっている。

【委員】
ユーチューブの特徴で「書類の書き方動画」というのは分かりやすくなるなと思う。

【事務局】
「市長と語ろう会」でも意見をいただいており，書類の書き方の動画配信は大事かなというふうに思っている。以前，新型コロナウイルス感染症関連の各種申請に係る申請書の書き方を動画の方で紹介して好評だったっていうこともあり，動画での手続き紹介は出来るだけ配信できたらと考え

ている。
【委員】
ユーチューブ周知に関する広報はどうしているか。

【事務局】
「あかるいまち」で、毎月ユーチューブ等のＳＮＳを紹介するようにしている。
ユーチューブについては，サブチャンネルとして手話動画チャンネルをオープンしたばかりであり，内容が充実した段階で紹介していく予定である。拡散の仕方なども考えていくべきだなと思っている。

【委員】
必要としている人に届いたらすごく見られそうである。

【事務局】
手話動画は聴覚に障害のある方がメインとなるので，所管の障がい福祉課と連携したい。聴覚障害者の団体もあり，チラシを作って直接届けるやり方もあると思うので、一緒にＰＲしていこうと思っています。

【委員】
高知市に申請する書類の書き方については、どの部署のでもユーチューブに掲載されているとなれば、すごく重宝されると思う。申請はどこの階に行けばいいか，導線動画もあればいいかもしれない。

■あかるいまち
【委員】
「あかるいまち」がリニューアルされているが，これに関してアンケートで寄せられた意見はどのようなものがあるか。

【委員】
目次や見出しだけで大体内容がわかり、読みやすくなった。あとは、文字の太さ、色の濃さなどを変えると拾い読みしやすくなるのではないか。

【委員】
アンケートの「取り上げて欲しい企画や内容」１位が「イベントや町のお店などおでかけ情報」になっているが、市が特定のお店などの情報を発信することは難しいと思う。アンケートの記載方法はどのようになっているのか。

【事務局】
項目を選択する形ではなく、自由記載になっています。

【委員】
このような意見が一番にニーズとして上がってこない方が市の広報紙としては一番望ましいと思う。

【事務局】
アンケートを取る中で、１位ではないが、「各課の仕事や業務内容」を取り上げてほしいという声もあり、まだまだ市役所のことを十分に情報発信できていなかったと再認識することができた。

■市長と語ろう会
【委員】
「市長と語ろう会」の効果はどうですか。

【事務局】
参加者からの意見からヒントを吸い上げて、テーマとなった各課が検討材料としている。

【委員】
少ない人数で開催しているため、参加している方には大変効果があると思うが、その場で得た気付きなどがどこまで市民と共有できているのかは疑問に思うため、もう少し工夫があればいいと思う。

■出前講座
【委員】
コロナの影響で一時、申請件数が減ったが、今後はまた増加していくと思われる。子どもたちへの出前講座も大切だが、高卒で公務員になる方もいるため、中学校や高校にもっと働きかけていってはどうか。

（２）第３期広聴広報戦略プランの骨子（案）について

■第３期広聴広報戦略プランの骨子（案）
【委員】
キャッチコピーの『アリバイ広報ゼロ』という言葉の意味が良く分からなかった。庁内の方に分かるなら良いが、第三者には理解が難しかった。

【委員】
ネガティブな印象があり、むしろ今までアリバイ広報をしていたのか、と思ってしまう。

【委員】
言葉のインパクト以上に意味を理解して、「伝わる」という視点から進めていけるのかどうか。

言葉の力に引っ張られすぎると、何かを見失ったり迷ったりするんじゃないかと思った。

【事務局】
このプランは庁内に浸透させていきたいため、職員に伝わらなければ意味が無い。

【事務局】
実際に私たちが、このプランを伝えたい相手である庁内の職員の意見も踏まえて、キャッチコピーを考えていきたい。

【委員】
実際にこれまで、市役所の窓口に行った際に、「ホームページやあかるいまちに載せているので」と対応されたこともある。全てではないが、こういったことも含めて、アリバイ広報をゼロにしようという意図なのかなと理解した。ある程度流行りそうな言葉でないとキャッチコピーとして浸透しにくいところもあると思うため、もしこの言葉を採用するのであれば、広聴広報戦略プランの中で定義付けをきちんとする必要があると思う。

【委員】
目を引く、耳を引く言葉ではある。

【事務局】
庁内には研修資料や計画などが溢れており、その中で手に取ってもらいたいという思いがある。その手段として、インパクトのあるキャッチコピーなのか、デザインの工夫なのか、方法は色々あると思う。

【委員】
たくさんあるその資料の中で開いてもらう言葉なんだなって自分が信じてるんであれば「アリバイゼロ」を通したらいいと思う。

【事務局】
もっといい言葉があれば、それはそっち使った方がいいかもしれない。

【委員】
賛否は出たが，これだけ議論で引っかかるっていうことは、それだけ力のある言葉なのかもしれない，

【委員】
作成したプランはどのように各課に届くのか。

【事務局】
庁内掲示板での掲示や、研修での周知を行う予定である。

【委員】

データで庁内の掲示したとしても、なかなか見ないと思う。広聴広報課として、他の課ではやっていないような方法での広報をするなど、全職員の方に刺さるように工夫していってほしいと思う。